

環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

2017年(平成29年)

2月15日(水)

第180号

毎月15日発行

平成13年4月17日

第三種郵便物認可

発行所 環境農業新聞社
編集発行人 成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041 フランス堂ビル3階
電話 03-3826-5212
FAX 03-3826-5217
年間購読料 3,000円(税・送料込)
郵便振替口座 00150-2-290578

主な記事

- …船津氏が京都で講演……(1面)
- …御池、発電展に出展……(2面)
- …原爆投下の真相……(3面)
- …新技術を相次いで開発……(4面)

特別顧問が講演

第6回日本の農業と食のシンポジウム

地方創生は原点回帰

4月2日、京都商工会議所

日本豊受自然農

第6回日本の農業と食のシンポジウムに山本幸三地方創生担当大臣特別顧問の船津準二氏が講演することになった。このシンポジウムは日本豊受自然農が主催し、4月2日(日)午前10時から京都・京都商工会議所で開催される。船津準二氏は若き日に日本農業新聞の記者から佐藤隆農相の秘書官に転身し、以来、政治に関わり、アベノミックスの仕掛け人、山本幸三衆議院議員の特別顧問を務め、現在、山本幸三内閣府特命担当大臣(地方創生、規制改革、まち・ひと・しごと創生担当、行政改革担当、国家公務員制度担当)の特別顧問を務め、地方自治体、関係団体などのトップなどから意見を聞き、自ら足を運び、地方創生に汗をかいている。



船津特別顧問

日本の農業と食のシンポジウムは、毎回、テーマを決めて開催されているが、今回は「食」「農」「健」「心」に加え、「食」「農」「健」「心」に加え、地球本来の生態系に戻すため、自然林再生など環境の面にも焦点を当てた大会にしたい、と大会長を務める由井寅子日本豊

受自然農代表は語っている。「原点回帰」の重要性を訴える船津準二氏は、

6次産業化を具体的に進めている日本豊受自然農の活動を高く評価しており、由井寅子代表の「パワーカー」にも「素晴らしい女性。農業生産、付加価値を高める加工品、農林水産物を素材とした化粧品、さらのオーガニックレストランの経営、それに林業の会社を作るとしている。滅多にいない人物」と語っている。山本幸三内閣府特命大

臣の信頼も厚く、色々な分野で根回し、大臣との懇談会などもセット。地方創生関係の予算もソフトの予算からハードの予算をつけて推進している。「全国の商工会、商工会議所の役割は大きい。農工商連携が地方創生の鍵を握っている。鹿児島県の活動に学ぶところ大きい」とも語っている。

その船津準二氏が今回のシンポジウムで講演するが、地方自治体、関係団体関係者にとっても有意義なものとなることは間違いなく。船津準二氏も「出来る限り多くの人に会って色々聞きたい」と語っている。

農商工連携が鍵

森林は人間を自然に戻す

日本豊受自然農 由井寅子代表のメッセージ

第6回日本の農業と食のシンポジウムを主催する日本豊受自然農(株)の由井寅子代表は次のように語っている。それを紹介する。



由井代表

所(京都市内)で開催することになりました。昨年(2016年)の「食」「農」「健」「心」に加え、地球本来の生態系に戻すため、自然林再生など環境の面にも焦点を当てた大会にしたいと思っております。

東日本大震災以降、毎春開催してきた「日本の農業と食のシンポジウム」。2017年4月2日(日)に京都商工会議

所(京都市内)で開催することになりました。昨年(2016年)の「食」「農」「健」「心」に加え、地球本来の生態系に戻すため、自然林再生など環境の面にも焦点を当てた大会にしたいと思っております。

最近私が特に感じることは、「森や山を自然に戻さなければならぬ」ということです。森林がしっかりと立っていないと川を流れるミネラル豊富な良水もつくられません。その川の水は海へ行きま

す。栄養の少ない水が海へ行くと魚や海藻なども育ちません。また、森林の木々が少なくなると大気の浄化や人間の出すネ

ガティブなエネルギーの浄化がしきれなくなってしまう。森林は人間を自然に戻す源ではないかと思っております。そこで、豊受グループの自然回帰のための活動として、日本豊受「自然林」株式会社を設立することになりました。

これは、広葉樹の森林の再生、復興という事業に取り組みしていくためです。二酸化炭素が増えることは、温暖化に限らず、生態系、また私たちの生存にも大きな影響を与えている重要な問題となります。

例えば、古来日本は、本州のあたりは「クスノキ」など常緑広葉樹(照葉樹)や、木の実や落ち葉で森に豊かな実りをもたらす「クヌギ」や「ブナ」、「クリ」など落葉広葉樹、これら広葉樹の森林がもっと広がり、その木の実やどろりとした動物たちの食糧となり、落ち葉が土壌菌や虫たちの栄養となり、豊かな森の土壌を育ててきました。このようにして日本各地に、その土地、土地にあった植生で森林が広がっていたのです。

しかし、どんどん広葉樹を伐採し、「スギ」や「ヒノキ」、「マツ」など木材として売れる針葉樹ばかりを積極的に植林した結果、広葉樹の森林が少なくなってしまう状態になりました。このような状態になると、良質な土も育ちませんし餌も少なくなってしまう。それでは豊かな森、水、川にならないのではないかと思います。安心・安全な食の提供もありませんが、本当の豊かさとは何だろうかと思いついて考える意義あるシンポジウムにしたいと思っております。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

第6回日本の農業と食のシンポジウム 大会長 日本豊受自然農株式会社 代表 由井寅子

第6回日本の農業と食のシンポジウム in 京都

日時: 2017年 4月2日(日) 10:00~18:00(予定)

会場: 京都商工会議所 3階講堂

主催: 日本豊受自然農株式会社 日本ホメオパシー医学協会

お申込み・お問合せ シンポジウム大会事務局 CHhom(シーエイチホーム) 大阪校 TEL: 06-6368-5355

3/20まで 早割 早割参加費 一般 7,500円 ※3/21以降の通常価格 一般 8,000円

今すぐ特設サイトにアクセス!! <http://toyouke.com/kyoto2017/> 「豊受 日本再生」で検索

由井寅子 春の全国講演ツアー もう一度、人生を生きたい—その解決方法— http://www.homoeopathy.ac/11reserve/2017spring_1.php

自然回帰 ~命は続く、考えよう、これでいいのか~

日本再生は自然な農林業と自然な心

船津準二 一原点回帰— 山本幸三内閣府地方創生・規制改革特命担当大臣特別顧問(晩の会会長)が地方創生成功への道を特別講演

自然農 和食復興 自然な心 森の復興 竹、乳酸菌 自然回帰 豊受自然農 静岡県南農協 日本豊受自然農 静岡県南農協 JPAH認定ホメオパスNo.087 日本豊受自然農 静岡県南農協 フラワーエッセンス創業者

高野 弘之 吉田 光弘 米丸 輝久 稲本 正 佐野 孝志 片野 敏和 深澤 史帆 中西 さやか 齋藤 光 東 昭史